

大江地域における小中一貫校の設置に関する

要 望 書

明日の大江の学校を考える会

大江地域においては、少子高齢化が進み、学校の児童生徒は減少傾向にあります。現在、美鈴小学校、有仁小学校において複式学級が設置されていますが、平成32年には、美鈴小学校において複々式学級になることが懸念されています。

このような状況を踏まえ、げん鬼保育園保護者会、美河小学校・美鈴小学校・有仁小学校・大江中学校PTAでは、大江ブロック学校統合協議会を立ち上げ、「児童にとってより良い教育環境」をつくるために数年にわたり協議・検討を重ね、平成29年3月、大江地域自治会長会に対し学校統合の要望書が提出されました。

これを受け、自治会長会では学校再編を考えるため、代表自治会長・大江まちづくり住民協議会代表・PTA代表等による「明日の大江の学校を考える会」を平成29年8月に立ち上げました。

学校を考える会では、大江の学校の状況や小中一貫校の制度及び現状について研究、近隣市の学校の視察研修を実施しました。そして11月7日、第5回学校を考える会において大江地域に小中一貫校の設置を要望することを決定しました。さらに地域住民に対する説明会を開催し、「大江地域における小中一貫校の設置の要望」について地域住民の理解を得たところです。

つきましては、大江地域の学校統合について、下記のとおり要望します。

記

- 1 大江地域の3小学校を統合し、統合した小学校（仮称：大江小学校）を平成32年4月に開校されたい。
- 2 統合した小学校は大江地域の誇れる学びの拠点として整備し、大江中学校とともに小中一貫教育を推進されたい。
- 3 学校の施設設備については、約300名（小学生約200名、中学生約100名）の児童生徒数であることを鑑み、小学校・中学校双方の学びを支える施設環境にされたい。
- 4 小中一貫校の開校にあたっては、地域住民、保護者、学校関係者等で構成する組織を設置し、円滑な統合・開校に向けた準備に努められたい。
- 5 閉校後の跡地については、大江地域全体の振興の視点も踏まえ、地元自治会と十分協議し、活用を図られたい。

「大江地域における小中一貫校の設置」の要望書に関する付帯意見

明日の大江の学校を考える会

明日の大江の学校を考える会では、子どもたちの教育環境の向上はもちろん、学校が大江地域のまちづくりに果たす役割を考慮しながら協議を重ね、要望書を提出することとなりました。

小中一貫教育のあり方や、通学方法、個々の施設整備、跡地の利活用など詳細については、開校に向けた準備委員会において十分検討いただけるものと理解し、期待しているところです。

協議を進める中で、住民説明会における教育委員会の回答に対する不安や今回の学校統合を機に「教育のまち福知山」にふさわしい学校施設の整備を期待する意見が強く出されたところです。

つきましては、要望書を提出するにあたり、明日の大江の学校を考える会として下記の意見を申し添えます。

記

- 1 小中一貫校の施設配置や整備については、現在の中学校に教室を付け足すといったことでなく、児童生徒数や成長段階に対応した全体計画(中学校周辺の拡張整備、学年に応じた校舎・教室の配置、休み時間の遊び場や交流学习の場として利用できる多目的スペースの設置、児童用玄関の設置、プール・遊具の新設、グラウンドの拡張整備、保護者の来校にも対応する駐車場の整備、スクールバス回転・待機場の整備、放課後児童クラブ施設の設置、近隣への環境的配慮など)を立て実施すること
- 2 要望の整備が開校時にすべて終了するものとは考えないが、年次計画に基づき短期の完成をめざすこと
- 3 小中一貫教育については、急激な変化で児童生徒や保護者、教職員に不安を与えることのないよう配慮して進めること
- 4 閉校後の跡地については、社会教育の活動の場、災害時の避難所など地区の中核施設としてこれまで果たしてきた役割や地元の意向を総合的に考慮し、利活用を図ること